令和６年度 津久井支援学校 第２回学校運営協議会 議事録

日　　時	令和６年10月15日（火） ９時30分～11時30分
場　　所	神奈川県立津久井支援学校 ２階 会議室
出　　席	学校運営協議会委員９名 事務局９名
問合せ先	副校長　藤原　英明　　電話 042-684-4872（直通）

１ 校長挨拶

・今年度の半年が過ぎ、折り返しを迎えました。半期の取組を報告して、次年度の学校運営向けてご意見をいただく機会にしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

２ 委員自己紹介

３ 教育企画グループの取組について

総括教諭より説明

４ 小中学部と連携支援グループの取組について

総括教諭より説明

５ 協議　　※○＝質疑　●＝回答　◎＝意見・感想

教育企画グループの取組について

［委員より］

○一斉授業には限界がある。そうした中でICT機器は、教育支援ツールとして有効。市内の学校の活用状況として小学校より中学校の方が進んでいるという印象がある。小学校ではためらいがあることも考えられる。PC画面ではなく、紙による提示の方が有効と判断すればそれでも良いのではないかと考える。支援学校ではICTをどのように活用して学びを深めようとしているのか。

［事務局より］

●まずは、教員の操作力の向上を第一に考えている。教員も得意不得意があり、夏休みに研修を行った。また、機器によっては馴染みにくい生徒もいる。だが、一人ひとりが自分のペースで学習をすすめられるメリットもある。

［委員より］

◎職員の考えを変える必要がある。見通しを持たせ、活動を見える化する意味で利用している。系統性を持たせるためのスキルアップも必要ではないか。子どもたちの方が上手に利用している。個に応じた学びには最適だと思う。学級閉鎖時には個人の状況確認などに役立っている。これからの学習活動には、情報の選択や起こっている事象、また社会情勢についての判断・選択のツールとして有効だと感じている。小学校、支援学校でツール活用の違いなど、情報交換があるといいと思う。

［委員より］

◎当施設にはiPadがあり、動画視聴を楽しむ利用者がいる。一部、利用者の中にはLINE等を利用している人もいるがまだ少数である。SNSなどの利用について、家庭の協力が必要である。

［司会者より］
○黒板ではなく電子黒板で学習している学校が出てきている。支援学校では、iPad や Chromebook 等、機器の違いによる不具合等ないのか。
［事務局より］
●まだまだ利用に対しての使用実態に踏みこめていないところもある。
［委員より］
○ライセンスの使用問題なのか、なぜ Chromebook なのか。Windows PC が主流の社会であると感じているがどうなのか。
［事務局より］
●県での一括購入であることが理由である。学校の全国的なシェアは Chromebook が多い。
［委員より］
◎家庭での子どもは、スマホなどあまり使っていないようで、SNS は怖いものと認識しているようだ。家庭での連絡手段にラインを使用している。夏休みに Chromebook を持ち帰ったが、Wi-Fi 接続を忘れていて使えなかった。スマホは使えても PC 端末は使えない。親も知識が必要だと反省した。教えてもらえるといいなと思う。
［委員より］
◎企業の事業所では、会議は PC で行っている。事務連絡には便利だ。ただし、気持ちを伝えるときは対面で伝えるのが良いと思っている。また、自分自身、漢字が書けなくなっている。注意したい。
［司会者より］
◎アナログとデジタルのバランスを保って使うことが大切ではないか。
［委員より］
◎職員は仕事で使っている。利用者も中・軽度の方はいろいろと情報交換に使っている。来店する高齢者の方が、使い方に困っているようだ。
［委員より］
◎まったくわからない人も多い。Chromebook も iPad も小学生の孫が使っているが、大人の方が分からない状態。家庭での利用について、確かに心配な面がある。
［司会者より］
○チェックリストの成果についてお聞きしたい。
［事務局より］
●まだ１回目を実施したところだが、スキルの成長度合いや現状段階の確認に役立っている。チェックリストを通して、授業構成や指導事項のポイントを共有する、等が成果かと思う。
小中学部と連携支援グループの取組について
［司会者より］
○交流学習の意義について　相手との共有はできているのか。
［事務局より］
●支援学校の思いとして「してあげる。してもらう。」の発想ではなく「みんなと仲良くなりたい。友だちになりたい。」を目的とした交流をしたい旨を伝え、共有している。
［委員より］
◎とても助かっている。総合学習の一環として、相互理解のための学習となる。通常級と支援級という考え方や括り方等、大人が勝手に壁を作っている部分は否めない。本校は通級等も行っている。家庭的な背景等の違いも大きいが、できることを進めたい。

［委員より］
◎交流に関する講演活動をしている。教員に向けても、生徒に向けても行っている。現場で聞かれる声は、大人に温度差があるということである。
［委員より］
◎個々人の温度差については、見えない何かがあるかもしれない。支援教育についての研修や指導主事の学校訪問が大切だと思っている。また、教職員には変化の激しい時代に対応していくために、これからの学校がどうあるべきか一人ひとり考えて欲しいと伝えている。そうした中、チャットGTPの精度が上がってきている。便利な反面、教育的な観点からICTは「考えさせる」「待つ」ことはできない。変わっていく世の中に対し、交流や支援教育について考えさせられる。
［司会者より］
◎学生も活用しているが時折、心配になることもある。
◎では前半についてはこれで一旦終了する。

６　休憩

７　各部会の取組について（「学校評価部会」「防災部会」「切れ目ない支援部会」）
副校長と総括教諭よりそれぞれ説明

８　研修報告「津久井支援学校のこれからを考える」
副校長より報告

９　協議
各部会の取組について
［司会者より］
○アンケートの項目は、学校目標に沿った内容か。またアンケートの集計結果はどう扱うのか。昨年は２回実施していたが、１回になったのはなぜか。１回目のアンケートを受け、その改善がなされたか２回目で変化が見られると良いと思うのだが、いかがか。
［事務局より］
●アンケートの項目は、学校目標に沿ったもの。アンケートの結果については、第３回の学校運営協議会で報告する予定だ。アンケート結果を次年度に繋げていきたい。アンケートは２回目と３回目の学校運営協議会の期間が短く、回答の変容が期待しにくいことや、負担感を訴える方もおり１回のみの実施と考えた。
［委員より］
○当施設も防災訓練をしている。入所者がいる施設であるため、防災は24時間体制で考えている。学校は24時間体制ではないが、どう考えているのか。
［事務局より］
●学校全体の防災マニュアルがある。稼業中はもちろんのこと、休業中の緊急時についても対策を立てている。例えば、教員の学校への参集方法や所要時間などを把握し、万が一に備えている。今後に向けて、地域の方々からの防災に対するニーズや意見を聞き、学校としてできることを検討していきたい。
［委員より］
◎夜間に備えて対策、対応を検討しておいた方がよい。施設には備蓄食料を備えている。万が一の時には、地域の方も利用できるようにしている。

［司会者より］
◎地域連携に係る、津久井支援学校職員の職員功績賞受賞は、地域との繋がりや関わりが評されたこと。素晴らしいことだと思う。地域の方にも周知して欲しい。また(ブルーベリーの活動が無くなることを受けて)ブルーベリーに代わるものがあれは、教えて欲しい。
［委員より］
◎事業所として、支援活動、防災活動、ボランティア活動等で、共催したい、協力したい。
［委員より］
◎津久井大豆を施設の畑で栽培している。大豆⇒きなこ⇒お菓子⇒販売の流れで活動している。ブルーベリーの収穫も行った。自分たちで育てたものを収穫し、製品化、商品化していく活動にすることが大事だと思う。
［委員より］
◎ブルーベリーはやりたかったが、コロナで実現できなかった。(ブルーベリーの代わりにできることとして)例えば、学校で育てた野菜の販売協力はできる。ただし売上金の扱いが課題ではないか。
［司会者より］
◎たしかに、学校で販売した時の売上金の扱い方の問題だ。製品の材料等の仕入れはNPO法人を介して行い、販売売上もNPO法人へという方法で作業し、パン販売を実施している学校がある。情報提供として。子供たちの活動を広げるためにできることは何か、を考えていく必要がある。
［委員より］
◎今後、湖上祭を予定しているが、出店スペースがある。そうしたイベントとしての学生ボランティアも募っているため、今後、支援学校と協力もできると思う。何かつながりができれば良い。
［司会者より］
◎地域のお祭りに製品販売で参加する方法もある。
研修報告「津久井支援学校のこれからを考える」
［司会者より］
○地域の高校のボート部とのつながりを考える等、なるほどと思った。研修で出た意見など何か他にあるか。
［事務局より］
●昨年よりこの地域で山椒を育てている方がいる。一緒に活動ができたらいいな、と考えている。
［委員より］
◎とうがらしを栽培している人の情報提供として、辛さの異なるとうがらしの栽培をしている。辛さの違いによって栽培場所を区切って栽培していたが、結局は混ざってしまったようだ。(そのような栽培の活動は)面白いのではないか。
［司会者より］
○支援学校に畑はあるのか。
［事務局より］
●小さな畑がある。地域の方の畑を借りるのも手ではあるが、長期休業中には生徒の活動が途切れてしまう。畑の管理や作物栽培の教員負担が大きい。

［委員より］
◎以前は、栽培から販売まで全ての行程を生徒や利用者が携わるべきという考えがあった。現在は生徒ができる活動は、工程の一部だけでも良いのではないか。以前とは考え方が変わってきている。支援者側の柔軟さが必要だ。
［司会者より］
◎夏休み中の畑管理は、人材ボランティアに依頼するとか、方法もある。
［委員より］
◎校長のビジョンに対して、職員一人ひとりが自分事とするのは難しい。その中で、全教員で津久井支援学校のこれからについていろいろな立場の役割に沿って意見交換し、出された意見を共有している研修は良いと思った。

10 校長あいさつ
・子どものやってみたいことだけではなく、教員のやってみたいことも同様に大切だと考えています。価値観を変えていきたいと思います。例えば、得意不得意で言うと、できないところを引き上げていくということから、得意な部分を更に伸ばしていく、という考え方に変えていきたいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

【配付資料】
- 令和６年度 学校運営協議会 委員名簿
- 令和６年度 学校評価報告 目標設定
- 教育企画グループ
  ①令和６年度 校内研究実施計画
  ②令和６年度 研究のための研修会実施計画
- 小中学部
  ①学校間交流について
  ②令和６年度 小学校・中学校との交流学習の意義共有について
  ③令和６年度 津久井支援学校・桂北小学校 学校間交流実施計画
- 防災部会
  ①令和６年度 学校運営協議会 防災部会計画
  ②令和６年度 防災研修会実施計画
- 切れ目ない支援部会
  ①地域交流（ブルーベリー摘み実施計画）
  ②奥畑地区（津久井支援学校周辺）清掃作業のお知らせ
  ③令和６年度 つながれ・つながりフェスティバル実施計画
  ④地域交流（オリーブ畑のお手入れ作業）実施計画
- 職員研修
  ①職員研修「津久井支援学校のこれからを考える」実施計画
  ② 職員研修「津久井支援学校のこれからを考える」事後アンケート

- つくいだより（NO.２～NO.5）